

答申内容をふまえた取組内容報告

【第一分科会】

平成27年度 行政評価委員会評価表

事業名	拠点回収促進	担当部	環境部
		担当課	清掃事務所

基本情報

概要	区民一人が身近な場所で資源のリサイクルに参加できる機会を提供するために、区内施設(保育園や地区センター等の区施設、区立公園など)に回収ボックスを設置し、古紙(紙パック)・ペットボトル・食品トレイ・古布・蛍光管・乾電池・インクカートリッジを回収し資源化に努めている。
活動内容	①【ペットボトル】私立保育園14ヶ所、区立保育園36ヶ所、地区センターや区役所、図書館等の区関連施設で22ヶ所の計72ヶ所で回収ボックスを設置し、区が委託した業者が排出量に応じ週1回から3回収し、集積所から回収したペットボトルと併せて資源回収業者へ売却している。 ②【食品トレイ】私立保育園7ヶ所、区立保育園20ヶ所の計27ヶ所で回収ボックスを設置している。 ③【紙パック】私立保育園14ヶ所、区立保育園20ヶ所の計34ヶ所で回収ボックスを設置し、食品トレイとともに区が委託した業者が週1回収し、食品トレイは再商品化委託、紙パックは古紙回収業者へ売却し、資源化ルートに乗せている。 ④【古布】平成20年10月より区立公園や地区センター等の15ヶ所において、巡回方式による古布回収を行っている。また、平成26年7月より区役所、かつしかエコライフプラザにおいて常設の回収ボックスを設置し営業時間内であれば随時回収を受け付けている。 ⑤【蛍光管・乾電池】地区センターや区役所、図書館等の22ヶ所の区関連施設では従来からのペットボトルに加え、平成21年7月より蛍光管・乾電池の回収ボックスを設置した。平成23年6月からはエコライフプラザにも回収ボックスを設置するなど、資源化に努めている。 ⑥【インクカートリッジ】平成23年6月より地区センターや区役所、図書館、エコライフプラザ等の23ヶ所の区関連施設でインクカートリッジの回収ボックスを設置した。

施策番号	1306	発生抑制を最優先にごみ減量に地域をあげて取り組めるようにします
事業の目的	区民に分別排出を定着させ、資源回収の協力率を上げるとともに、ごみ減量・リサイクルの意識高揚を図りごみ減量につなげる。	

実績情報

成果指標								
目標・実績	指標	指標の根拠	単位	区分	24年度	25年度	26年度	27年度
					目標回収量	—	Kg	目標
実績	—	Kg	実績	164,518	162,501	174,251		
実績の評価・分析	①拠点での資源回収量については、集団回収実施団体数の増加や資源リサイクルへの意識定着とごみ減量啓発に伴い、ここ数年(平成22年～25年)横ばいから減少傾向であった。 ②古布について、平成26年7月より多くの区民が利用できる様に常設の古布回収ボックスを2か所設置した。その結果、2か所の回収量は平成27年3月末までに8,950kgに達し、古布全体では148,990kg(前年度実績 140,680kg)で前年度比+8,310kgと今まで拠点回収を利用しない区民が持ち込み、回収量増加に寄与しているものと考えられる。							



活動指標									
目標・実績	指標	指標の根拠	単位	区分	24年度	25年度	26年度	27年度	
					設置拠点施設	—	箇所	目標	84
実績	—	箇所	実績	84	84	84			
目標回収ボックス設置数	—	—	台	目標	171	171	177	目標	182
				実績	171	177	178		
—	—	—	—	目標	—	—	—	目標	—
—	—	—	—	実績	—	—	—	実績	—

方向性

評価してもらいたい点 ①あり方 ②課題	② 古布については、平成20年10月より、区立公園や地区センター等の15ヶ所において、回収車による巡回方式で回収を行っているが、回収日は月1～2日、回収時間も1日当たり約2時間と限定的である。そのため、平成26年7月1日より葛飾清掃事務所とかつしかエコライフプラザ内の2ヶ所において古布の常設の回収ボックスを設置し、営業時間内ならば随時受付が可能とし、利用者の利便性向上を図った。常設の回収ボックス設置により、ある程度回収量の増加に寄与したが、平成26年度のごみ性状調査では、燃やすごみ全体量(87,162t)のうち約3.8%(3,312t)が繊維であり、ごみとして処分されていく状況であるため、更に回収量を増やし古布の資源化を図る必要がある。
所管課 評価による 方向性	拡充 ①古布の拠点回収について、指定した日時に回収場所まで持ち込めなかった利用者や拠点回収を知らない区民が燃やすごみとして排出しているため、更なる周知を行い、古布回収の普及拡大を目指す。 ②今後の回収実績の推移を注視し、常設の古布回収ボックスの設置を増やし、資源回収量の増加と区民サービスの向上を図る。なお、増設にあたっては、利用者の利便性・安全性を考慮の上、設置場所を検討していく。

コスト内訳(決算)

項目		単位	25年度	26年度	コストの主な内訳
収入	特定財源	千円	0	0	紙パック・ペットボトル売却収入
	都道府県支出金	千円	0	0	
	その他	千円	16	20	
	一般財源(a)	千円	8,483	8,465	

事業費	直接事業費(b)	千円	6,939	6,905	資源回収袋の購入 ・蛍光管・乾電池の回収・保管業務委託 3,684千円 ・蛍光管・乾電池の運搬・処理委託 1,706千円 ・食品トレイ・紙パック回収業務委託 1,294千円 ・古布の回収・処理委託 166千円
	消耗品費	千円	296	55	
	委託料	千円	6,613	6,850	
	修繕費	千円	30	0	
	人件費等	千円	1,560	1,580	
	職員人件費(c)	千円	1,560	1,580	
	人件費	千円	1,560	1,580	
	再雇用職員	千円	0	0	
間接費(d)	千円	0	0		
調整額(e)	千円	190	40		
減価償却費	千円				
金利	千円				
退職給与引当	千円	190	40		
(控)コスト対象外	千円				
トータルコスト(f)	千円	8,689	8,525		

単位あたりコスト	項目	単位	25年度	26年度	コスト増減の理由 古布常設回収ボックス設置により、サービス提供回数が増加したため。
単位の定義	サービス提供回数(延べ回収回数)				
	実績数値(g)		13,243	13,671	
単位あたり区単コスト(a/g)	円	641	619		
単位あたりコスト(f/g)	円	656	624		

評価表(実績情報抜粋版)

事業名	拠点回収促進	担当部	環境部
		担当課	清掃事務所

実績情報

成果指標								
目標・実績	指標	指標の根拠	単位	区分	24年度	25年度	26年度	
	拠点回収量	—	Kg	目標	24年度	177,800	177,400	167,400
					実績	164,518	162,501	174,251
					27年度	28年度	29年度	
					目標	179,100	199,100	219,100
					24年度	25年度	26年度	
	—	—	Kg	目標	24年度	—	—	—
					実績	—	—	—
					27年度	28年度	29年度	
					目標	—	—	—



活動指標								
目標・実績	指標	指標の根拠	単位	区分	24年度	25年度	26年度	
	設置拠点施設	—	箇所	目標	24年度	84	82	84
					実績	84	84	84
					27年度	28年度	29年度	
					目標	87	87	87
					24年度	25年度	26年度	
	回収ボックス設置数	—	台	目標	24年度	171	171	177
					実績	171	177	178
					27年度	28年度	29年度	
					目標	182	182	182
				24年度	25年度	26年度		
—	—	—	目標	24年度	—	—	—	
				実績	—	—	—	
				27年度	28年度	29年度		
				目標	—	—	—	
				24年度	25年度	26年度		
—	—	—	目標	24年度	—	—	—	
				実績	—	—	—	
				27年度	28年度	29年度		
				目標	—	—	—	

答申内容をふまえた取組内容報告

評価対象事務事業名	拠点回収促進	所管課	環境部 清掃事務所
-----------	--------	-----	--------------

平成27年度 行政評価委員会 第2回全体会における評価結果	
項目	提言内容
実績状況	<p>成果</p> <p>【古布の回収実績について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回方式による回収に加え、常設の回収ボックスを設置したことで、古布の回収量増加に寄与している。 ・巡回方式による回収は、月に1回2時間程度と、回収日及び回収時間が限られているため、古布が可燃ごみとして廃棄されている要因の一つとなっている。
	<p>コスト</p> <p>【コストについて】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成27年4月から6月の古布の常設回収ボックスの回収量が、平成26年度の常設ボックスの回収実績を上回っていることから、効率的な回収が行われている。 ・コストを抑えて回収を行っていることは評価できるが、古布の一部が資源として回収されず可燃ごみとして廃棄されているため、余分な処分コストが掛かっていると云える。
今後の方向性	<p>拡充</p> <p>【古布の回収方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回方式での古布回収では指定日及び指定時間に持ち込めない区民もいることから、図書館や地区センター等利便性の高い場所に古布の回収ボックスを増設するための予算措置を要望する。 ・古布の回収量を更に増加させるため、持ち込んだ古布の量に応じてポイントを付与する等、区民の資源回収意欲の向上を図る取組みを検討してはどうか。 <p>【周知方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資源回収を促進していくためには、区民の環境に対する意識の向上が不可欠である。そのためには、小中学校での環境学習や職員出前講座を活用し、ごみ減量や資源回収の意義、資源がごみとして廃棄されている現状、資源として回収することでコストを抑制できること等を積極的に発信することで、区民の意識付けを行うべきである。 ・区民への周知にあたっては、区民の興味をひくようなインパクトのあるキャッチフレーズの使用や、ごみ減量・3R推進キャラクター「リー(R e e)ちゃん」の更なる活用が必要である。



事務事業改善の取組
取組内容
<p>【古布の回収実績について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古布の回収量を増やし、ごみの減量を促進するため、引き続き、巡回方式による回収に加え、常設回収ボックスによる古布の回収を実施していく。 ・平成26年度の古布の回収実績が約149t(巡回:約140t、常設:約9t)に対して、平成27年度の古布回収量は合計約160t、その内、巡回方式による回収量は約130t(前年度比約-8%)、常設回収ボックスによる回収量は約30t(前年度比約330%)の見込みとなっている。このことから、回収日及び回収時間が限定されている巡回方式による回収より、営業時間内であれば区民が自由に古布を持ち込むことができる常設回収ボックスの方が区民にとって利便性が高いと判断し、平成28年度に常設回収ボックスを増設することとした。
<p>【コストについて】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も、巡回方式による回収に加え、常設回収ボックスによる回収を継続し、回収する古布の量を増やすことで、効率的な回収に努めていく。 ・平成28年度に常設回収ボックスを増設することでコストの増加は見込まれるものの、今後も、資源として回収可能な古布が可燃ごみとして廃棄されないよう、古布回収の実施や分別の徹底を積極的に区民へ周知し、余分な処理・処分コストを抑制していく。
<p>【古布の回収方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在設置している2カ所に加え、平成28年度には常設回収ボックスを新たに4カ所増設するべく予算措置を行った。現在、清掃事務所の職員が、地域バランスや駐車場・保管場所等の有無を確認し、区民の利便性及び安全性の観点から設置候補施設の選定を行っているところである。平成28年5月には具体的な設置場所を決定し、広報やホームページ等で周知した後、10月から増設する4カ所において古布の回収を開始する予定である。 ・常設回収ボックス増設後の古布の回収量の推移を見極めながら、古布の回収実績の公表等区民の資源回収意欲を高める効果的な取組みを検討していく。 <p>【周知方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在、小中学校での環境学習や職員出前講座では、ごみ減量や資源回収の意義等を説明している。また、地域住民の自主的な組織である清掃協力会や地区ごとに行っている清掃懇談会においては、地区ごとの巡回方式による古布の回収日や常設回収の実施についても説明を行っている。平成28年度には、対象者に応じて、新たに、資源が可燃ごみとして廃棄されている現状や資源の再生化の流れ、資源として回収することでコストを抑制できること等を説明内容に組み込み、環境に対する意識付けを行っていく。 ・引き続き、ごみ減量・3R推進キャラクター「リー(R e e)ちゃん」を活用して、ごみ減量と3Rの重要性を周知していく。また、古布の回収を広く区民へ周知するため、清掃協力会や清掃懇談会に協力を仰ぎ、町会を通じたインパクトのあるキャッチフレーズの募集を検討する。

平成27年度 行政評価委員会評価表

事業名	介護人材雇用促進事業	担当部	福祉部
		担当課	介護保険課

基本情報

概要	<p>介護保険は、介護を必要とする人を社会全体で支えていく制度で、平成12年4月の運用開始以降、適時見直しを行い制度の充実を図ってきた。制度の充実と高齢化の進展に伴い、介護サービスへの需要が高まり、サービスを担う人材の確保が大きな課題となっている。そのため、平成26年度より「介護のしごと大発見」と銘打ち、葛飾区社会福祉協議会、ハローワーク墨田、葛飾区介護サービス事業者協議会と連携して、合同説明会を開催している。</p> <p>第1回 日時 平成26年9月27日(土) 午前10時～4時 会場 テクノプラザかつしか 第2回(予定) 平成27年9月18日(金) 午後1時～4時 テクノプラザかつしか</p>
----	---

活動内容	<p>(1)対象 葛飾区介護サービス事業者協議会会員事業者及び学生、一般求職者 (2)周知 ①事前にハローワーク墨田及び葛飾区介護サービス事業者の事業所、大学・専門学校・高校等でチラシを配布 ②ハローワークのホームページ、広報かつしか (3)事業内容 ①開催会場に法人・事業者ごとにブースを設け、ブースを訪問した求職者に事業者が業務の説明を行っている。その後、求職者の希望があれば、事業所などの見学、面接、採用へとつないでいく ②求職者向けの就職支援講座を開催 ③希望者に託児サービスを提供する</p>
------	---

施策番号	0801	福祉サービスを必要とする人が安心してサービスを利用できるようにします
------	------	------------------------------------

事業の目的	区内の介護事業者の人材の確保の機会を設けて、介護関係業務に係る労働力を確保し、介護保険サービスの質の向上を図る。
-------	--

実績情報

成果指標									
目標・実績	指標	指標の根拠	単位	区分	24年度	25年度	26年度	27年度	目標
	就業に結びついた人数	合同説明会の参加をきっかけに就業をした人数	人	目標	—	—	14		
実績	—	—	—	実績	—	—	5	—	
	—	—	—	目標	—	—	—	—	
実績の分析	平成26年度の開催では、チラシを10,000枚作成し、ハローワーク墨田、事業所などで配布を行ったが、参加者は延べ103人とどまった。合同説明会実施後に、説明会参加団体と事業内容の確認を行い、周知方法や開催日などの改善点が挙げられた。								



活動指標									
目標・実績	指標	指標の根拠	単位	区分	24年度	25年度	26年度	27年度	目標
	参加延べ人数	合同説明会への参加人数	人	目標	—	—	100		
実績	—	—	—	実績	—	—	103	—	
	—	—	—	目標	—	—	—	—	
実績	—	—	—	実績	—	—	—	—	
	—	—	—	目標	—	—	—	—	

方向性

評価してほしい点 ①あり方 ②課題	①	介護サービスの質の維持・向上を図るため、今後も介護事業者などと連携を行いながら、介護人材を確保する取り組みを行う必要があるため、より良い周知の方策や介護事業者などの連携方法、説明会の開催方法などについての検証を行う。
所管課 評価による 方向性	拡充	今後、さらなる高齢化の進展に伴い、介護サービスへの需要が高まることを見込まれることから、介護サービスを担う人材の確保・定着、育成を図り、サービスの質の向上に取り組まなければならない。「介護のしごと大発見」のさらなる充実を図るとともに、そのほかにも介護人材の確保、育成について支援策を講じる。

コスト内訳(決算)

項目	単位	25年度	26年度	コストの主な内訳
収入	特定財源	千円	—	0
	都道府県支出金	千円	—	435
	その他	千円	—	0
	一般財源 (a)	千円	—	1,215

事業費	直接事業費 (b)	千円	—	860	
	印刷製本費	千円	—	98	チラシ代
	委託料	千円	—	636	会場設営
	使用料及び賃借料	千円	—	112	会場使用料
	通信運搬費	千円	—	14	チラシ郵送
		千円	—	0	
		千円	—	0	
		千円	—	0	
		千円	—	0	
		千円	—	0	
人件費等	職員人件費 (c)	千円	—	790	
	人件費	千円	—	790	
		人	—	0.10	
	再雇用職員	千円	—	0	
		人	—	0.00	
	間接費 (d)	千円	—	0	
	調整額 (e)	千円	—	20	
	減価償却費	千円	—	0	
	金利	千円	—	0	
	退職給与引当	千円	—	20	
(控)コスト対象外	千円	—	0		
トータルコスト(f)	千円	—	1,670		

項目	単位	25年度	26年度	コスト 主な 増減の 理由 の 詳細
単位の定義	就業に結びついた人数			
実績数値 (g)	人	—	5	
単位あたり区単コスト (a/g)	円	—	243,000	
単位あたりコスト (f/g)	円	—	334,000	

評価表(実績情報抜粋版)

事業名	介護人材雇用促進事業	担当部	福祉部
		担当課	介護保険課

実績情報

成果指標								
目標・実績	指標	指標の根拠	単位	区分	24年度	25年度	26年度	
	就業に結びついた人数	合同説明会の参加をきっかけに就業をした人数	人	目標	—	—	14	
				実績	—	—	5	
					27年度	28年度	29年度	
					目標	10	15	20
	指標	指標の根拠	単位	区分	24年度	25年度	26年度	
	—	—	—	目標	—	—	—	
					実績	—	—	
					27年度	28年度	29年度	
					目標	—	—	



活動指標								
目標・実績	指標	指標の根拠	単位	区分	24年度	25年度	26年度	
	参加延べ人数	合同説明会への参加人数	人	目標	—	—	100	
				実績	—	—	103	
					27年度	28年度	29年度	
					目標	200	200	250
	指標	指標の根拠	単位	区分	24年度	25年度	26年度	
	—	—	—	目標	—	—	—	
					実績	—	—	
					27年度	28年度	29年度	
					目標	—	—	
指標	指標の根拠	単位	区分	24年度	25年度	26年度		
—	—	—	目標	—	—	—		
				実績	—	—		
				27年度	28年度	29年度		
				目標	—	—		

答申内容をふまえた取組内容報告

評価対象事務事業名	介護人材雇用促進事業	所管課	福祉部 介護保険課
-----------	------------	-----	--------------

平成27年度 行政評価委員会 第2回全体会における評価結果	
項目	提言内容
実績状況	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際に「介護のしごと大発見（合同説明会）」の参加をきっかけに就業に結びついており、本事業の必要性は高く、更なる成果向上を目指す必要がある。
	<p>コスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・合同説明会の案内チラシの印刷製本費や会場設営の委託費など必要最小限のものであり、事業内容に対するコストは妥当である。
今後の方向性	<p style="text-align: center;">拡充</p> <p>【合同説明会の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・合同説明会に参加し就業に結びつけるには、合同説明会を知ってもらい、参加してもらうことが必要である。そのため、案内チラシを現在の広報掲示板への貼り出しやハローワーク、福祉の専門学校に送付するだけでなく、新たに自治町会の回覧板で周知するなど、様々な広報媒体を活用して周知の拡大を図っていくべきである。 ・合同説明会の案内チラシに、タイムスケジュールや会場の写真を掲載するなど説明会の雰囲気がわかる内容を盛り込み、より身近に感じることができるよう実際に説明会に参加し採用となった方からのメッセージを表示してはどうか。 ・チラシ・ポスターは、色使いなどで明るいイメージが持てるようにし、予算を増額しても内容を充実したものにすべきである。 <p>【ニーズの把握】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・説明会に参加し採用となった方から聴取した「就職を決めた理由」等は、本事業を進めていく上で大変重要なものである。このことは、介護事業者にも情報提供するとともに、今後は、合同説明会参加者の意向等の把握に努め、ニーズに対応した取組みをすべきである。 <p>【PR活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護の仕事は嫌厭されがちであるため、更なる高齢化社会を支える働きがいのある仕事であることなどを積極的にPRし、魅力ある職業であることを伝えていくことも必要である。 <p>【今後の人材確保対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在、国においても法改正等、介護人材確保に向けた検討が行われており、その動向には注視する必要がある。また、将来を見据えた介護人材の確保には、人材確保対策に加え、定着支援対策も必要であり、他区で実施している資格取得に要する費用の助成なども参考に、効果的な対策に取り組むべきである。



事務事業改善の取組
取組内容
<ul style="list-style-type: none"> ・平成27年度の合同説明会の開催日は、26年度の土曜日開催から子育て中の方も参加しやすいよう平日開催としたため、参加者が増え就業に結び付いた人は、26年度の5人から9人へと増えた。28年度も、介護事業者や参加者などのご意見を取り入れて内容の充実を図るほか、フェイスブックやツイッターなどによる周知方法の拡充により、更なる成果向上を目指す。
<ul style="list-style-type: none"> ・平成27年度は、新たにポスターを作成して周知方法を拡充した。28年度は、案内チラシやポスターに体験談を掲載するなど、伝わりやすく興味をもってもらえる内容となるよう工夫をする。
<p>【合同説明会の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成27年度は、従来の案内チラシによる周知のほか新たにポスターを作成し、区の広報掲示板への掲示や、ハローワーク、区内の高校、福祉の専門学校などへ掲出依頼を行った。28年度は、区内各駅へポスターの掲出依頼を行うことや、フェイスブック、ツイッターなどの電子媒体の利用、自治町会の回覧板の活用など、合同説明会の開催がより多く方の目にとまるよう、周知方法に工夫をする。 ・28年度の案内チラシ・案内ポスターの作成にあたっては、色使いなどを工夫して明るいイメージが持てるようする。また、合同説明会のタイムスケジュールや参加者からの体験談の掲載などを行い、参加者が合同説明会の内容を具体的に理解できるチラシ・ポスター作りを行う。 <p>【ニーズの把握】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・合同説明会を契機として採用となった方からは、「保育サービスがあり、説明会に参加しやすかった」「資格、経歴はあるが、子育てのため一旦退職していた。勤務先に託児所があることを知り応募した」などの回答を得たことから、平成27年度はこれらのご意見をもとに介護事業者などと意見交換を行った。28年度も採用となった方のご意見や参加者からのアンケートをもとに、より良い開催方法をハローワーク、介護事業者などと検討していく。 <p>【PR活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成28年度以降、区の広報紙やホームページなどで介護職員を取り上げること増やし、介護職が高齢化社会を支える大切な仕事であることを伝えていく。また、介護事業者において実施する事業なども、区の広報紙などでPRしていく。 <p>【今後の人材確保対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成28年度から、介護職に従事する方の資格取得を支援するため、介護職員初任者研修及び実務者研修にかかる研修費用を6分の1ずつ、3年間にわたり補助する「介護職員キャリアアップ助成」を実施する。

平成27年度 行政評価委員会評価表

事業名	図書館ボランティア育成事業	担当部	教育委員会事務局
		担当課	中央図書館

基本情報

概要	図書館では、乳幼児から高齢者、障害がある方など、誰もが本に親しめる環境を整備することを目的に、図書館ボランティアを育成している。そのため、講習会や講座を開催し、ボランティアの資質向上とボランティア人数の拡大を図っている。 講習会等を受講したボランティアについては、区の共催事業への参加や、ボランティア団体への入会を促して、ボランティア活動へつなげ、区民の読書活動の啓発に努めている。
----	--

活動内容	読み聞かせボランティア講座、パソコンを使った絵本づくりボランティア講座、ブックスタート公開講習会、音訳・点訳ボランティア養成講座等を開催し、様々なボランティア育成に取り組んでいる。 中央図書館の開館に伴い、平成21年6月にボランティア団体「葛飾図書館友の会」が発足した。「葛飾図書館友の会」は、図書館でのボランティア活動や学習会・交流会などを通じて、図書館がいつも区民のための場であるよう守り育て、また会員が生涯学習の場として共に学ぶことを目的として活動している。 ※ボランティア育成に係る経費は、複数の事業経費にまたがり計上している。経費名とそこに係る事業は下記のとおり。(別紙参照のこと) ①「図書館ボランティア育成事業経費」：点訳・音訳ボランティア養成に係る経費と「葛飾図書館友の会」が主催する講演会の経費を計上。 ②「読書活動啓発事業経費」：読み聞かせボランティア、パソコンを使った絵本づくりボランティア養成に係る経費を計上。 ③「子ども読書活動推進経費」：ブックスタートボランティア養成に係る経費を計上。
------	--

施策番号	施策	2102	多様な手段で、図書サービスを受けられるようにします
事業の目的	乳幼児から高齢者や障害がある方など、様々なニーズに対してサービスを行えるよう、ボランティアを養成する。		

実績情報

成果指標									
目標・実績	指標	指標の根拠	単位	区分	24年度	25年度	26年度	27年度	目標
	ボランティア登録数	区立図書館にボランティア登録している数	人	目標	275	320	320		
ボランティア育成講座参加者数	講座参加者の延べ人数	人	実績	315	305	356	450		
実績の評価・分析	多様な分野の図書館ボランティアを養成しているが、中でも大きく比重を占めているのは、「読み聞かせボランティア」(子どもやその親を対象)「音訳・点訳ボランティア」(視覚や聴覚に障がいを持つ方を対象)の2つである。「図書館友の会」(図書館への協力や講演会、また行事の企画等広く利用者向けに活動を展開)は、養成は行わずに図書館をもっとより良くしたいと願う方々のボランティア団体である。 ボランティアの登録者数は、平成25年度に減少が見られたが、26年度には51名増加しており、内訳としては、特に読み聞かせボランティア、音訳ボランティアの登録者数が増加している。 ボランティア育成講座の参加者数については、ほぼ横ばいで推移している。今後も、ボランティア育成を継続しながら、活動の場の情報提供も進めていく必要があると考える。								
	目標	450	450	450	458	476	474	450	



活動指標									
目標・実績	指標	指標の根拠	単位	区分	24年度	25年度	26年度	27年度	目標
	図書館ボランティア活動回数	ボランティアとして活動した回数(延べ回数)	回	目標	800	1,700	1,600		
—	—	—	—	実績	1,546	1,355	1,561	—	
				目標	—	—	—	—	
				実績	—	—	—	—	
				目標	—	—	—	—	

方向性

評価してもらいたい点 ①あり方 ②課題	①	区民の読書活動を啓発していくために、図書館ボランティアの活躍は大きいものであり、図書館ボランティアの育成にあたっては、様々なニーズに応えられるよう、効果的に行っていかなければならない。 図書館では、現在行っている読み聞かせ等のボランティアの養成や、新たな図書館サービスとして、来館が困難な利用者への宅配ボランティアの養成についても必要なものと考えている。 今後のボランティア養成にあたり、既存のボランティア養成・活用方法と新たな宅配ボランティアの養成について、行政評価委員の意見を取り入れ、様々な利用者が、より読書活動が進められるように検討していきたい。
所管課 評価による 方向性	拡充	●ボランティアの育成を継続し、図書館等を支えるボランティア活動を支援するとともに、活動機会の充実に努める。 ●ボランティア活動を活性化していくために、ボランティア連絡会の開催等によって、個人で活動するボランティアが横の繋がりを深める仕組みづくりを検討する。 ●元気な高齢者がこれまで培ってきたスキルを活かせるように、図書館での新たなボランティア活動への参加促進を図る仕組みづくりに取り組んでいく。 ●新たにサービスを充実する宅配ボランティアについては、来館が困難な方等への利用をこれまで以上に促進するために、シニア世代など、ボランティア活動を希望する方への活動機会のPRを図り、養成の仕組みづくりについて検討し、早期の宅配事業の実施を目指していく。

項目	単位	25年度	26年度	コストの主な内訳
収入	特定財源	千円	0	0
	国庫支出金	千円	0	0
	都道府県支出金	千円	0	0
	その他	千円	0	0
一般財源(a)	千円	8,266	8,128	

事業費	直接事業費(b)	千円	466	228	
	報償費	千円	206	205	点訳ボランティア育成講座講師謝礼(H25音訳、H26点訳) 葛飾図書館友の会講演会講師謝礼
	食糧費	千円	13	13	ボランティア用お茶(ペットボトル500ml)等
	筆耕翻訳料	千円	9	10	葛飾図書館友の会主催特別講演会の開催に伴う手話通訳の派遣
	委託料	千円	238	0	
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
人件費等	職員人件費(c)	千円	7,800	7,900	
	人件費	千円	7,800	7,900	
		人	1.00	1.00	
	再雇用職員	千円			
		人	0.00	0.00	
	間接費(d)	千円	0	0	
	調整額(e)	千円	950	200	
減価償却費	千円				
金利	千円				
退職給与引当	千円	950	200		
(控)コスト対象外	千円				
トータルコスト(f)	千円	9,216	8,328		

単位あたりコスト	項目	単位	25年度	26年度	コスト 主な 理由 の 増 減 の
	単位の定義	ボランティアとして活動回数			
	実績数値(g)	回	1,355	1,561	
	単位あたり区単コスト(a/g)	円	6,100	5,207	
	単位あたりコスト(f/g)	円	6,801	5,335	

隔年で委託実施する講習会あり。26年度は未実施による減。

評価表(実績情報抜粋版)

事業名	図書館ボランティア育成事業	担当部	教育委員会事務局
		担当課	中央図書館

実績情報

成果指標								
目標・実績	指標	指標の根拠	単位	区分	24年度	25年度	26年度	
	ボランティア登録数	区立図書館にボランティア登録している数	人	目標	275	320	320	
				実績	315	305	356	
					27年度	28年度	29年度	
					目標	350	370	390
	指標	指標の根拠	単位	区分	24年度	25年度	26年度	
	ボランティア育成講座参加者数	講座参加者の延べ人数	人	目標	450	470	400	
				実績	458	476	474	
					27年度	28年度	29年度	
					目標	450	460	470



活動指標								
目標・実績	指標	指標の根拠	単位	区分	24年度	25年度	26年度	
	図書館ボランティア活動回数	ボランティアとして活動した回数(延べ回数)	回	目標	800	1,700	1,600	
				実績	1,546	1,355	1,561	
					27年度	28年度	29年度	
					目標	1,600	1,650	1,700
	指標	指標の根拠	単位	区分	24年度	25年度	26年度	
	—	—	—	目標	—	—	—	
					実績	—	—	
					27年度	28年度	29年度	
					目標	—	—	—
指標	指標の根拠	単位	区分	24年度	25年度	26年度		
—	—	—	目標	—	—	—		
				実績	—	—		
				27年度	28年度	29年度		
				目標	—	—	—	
指標	指標の根拠	単位	区分	24年度	25年度	26年度		
—	—	—	目標	—	—	—		
				実績	—	—		
				27年度	28年度	29年度		
				目標	—	—	—	

答申内容をふまえた取組内容報告

評価対象事務事業名	図書館ボランティア育成事業	所管課	教育委員会事務局 中央図書館
-----------	---------------	-----	-------------------

平成27年度 行政評価委員会 第2回全体会における評価結果	
項目	提言内容
実績状況	<p>成果</p> <p>【ボランティア登録者数】 ・育成講座の実施やボランティア団体「葛飾図書館友の会」の発足によって、必要とされるボランティア登録者数は一定程度確保されている。 ・学校等で活動している読み聞かせボランティアにも、図書館のボランティアとして活動してもらえるような働きかけも必要である。</p> <p>【ボランティア活動の継続性の確保】 ・家庭の事情等によって、従来の頻度で活動することが困難になった場合でも、活動者の意向を汲んで、活動が継続できるよう配慮していることは評価できる。</p>
	<p>コスト</p> <p>【経費の計上】 ・図書館ボランティアの育成にかかる経費が複数の事業に渡って計上されており、区民にとってわかりづらい。</p> <p>【人材育成の必要性】 ・子どもへの読み聞かせは、子どもの精神活動を高める重要な役割があるため、ボランティアの資質向上等、人材育成にも経費をかけて取り組む必要がある。</p>
今後の方向性	<p style="text-align: center;">拡充</p> <p>【ボランティア活動の継続性】 ・子どもが小学校を卒業し、学校での読み聞かせボランティアを離れる方でも、児童館や保育園、図書館等で活動を継続していけるように、活動の機会を提供する等、活動支援をしていくことが必要である。</p> <p>【ボランティアの資質向上】 ・ボランティアの資質向上を図るために、ボランティア活動の意義や重要性、心構えについて等、人材育成につながる研修も充実させるべきである。</p> <p>【ボランティア活動にかかる実費負担】 ・ボランティアには活動に要する交通費等を支給していないとのことだが、活動にかかる経費が発生していれば区から支給すべきである。</p>
	<p>【宅配ボランティア】 ・宅配サービス利用者から対応困難な要求がある場合も考えられるため、対応困難なケースは職員が対応する等、ボランティアの負担が過重にならないような配慮をすべきである。 ・宅配ボランティアのPRには、従来の周知方法に加えて、自治町会回覧板の活用や、図書資料貸出時にチラシを配付する等、効果的かつ効果的な周知方法を検討してほしい。</p>



事務事業改善の取組
取組内容
<p>【ボランティア登録者数】 ・学校等で活動している読み聞かせボランティアにも、図書館でも活動してもらえるよう学校図書館・公共図書館連絡会や学校等への訪問を通じて今後も継続的に働きかけを行っていく。</p> <p>【ボランティア活動の継続性の確保】 ・家庭の事情等によって、従来の頻度で活動することが困難になった場合でも、今後も活動者の相談に応じながら、引き続き情報提供ができるようにしていく。</p>
<p>【経費の計上】 図書館ボランティア育成事業においては、図書館で活動するボランティアと、学校、保育園等の図書館以外で活動するボランティアを育成しているが、各事業毎にボランティア経費とそれ以外の経費が計上されていることによって、事業規模の全体像が把握できる成り立ちとなっている。ボランティアにかかる経費のみを集約し、計上することによって、事業規模の全体像がつかみにくくなってしまいうため、今後も現状の形で経費を計上していく。</p> <p>【人材育成の必要性】 ・読み聞かせボランティア講座では、これまでも外部講師を招き、ボランティア活動の意義や絵本の読み聞かせが乳幼児の脳の発育に与える影響等、ボランティアの資質向上に資する内容の講演会を取り入れているが、今後も資質向上や人材育成に着目したプログラムを充実させていく。</p>
<p>【ボランティア活動の継続性】 ・読み聞かせボランティアを継続していけるように、講座修了後に参加者同士のつながりを深めるため、28年度から「読み聞かせボランティア講座(初級)」実施回数を1回増やし、新たにフォロー研修を設ける。仲間と勉強を続けることが、スキルアップやモチベーションの維持に繋がることから、フォロー研修後には積極的にグループ化を図り、継続的な活動がしやすくなるよう支援する。 ・読み聞かせボランティア講座の中で、児童館、保育園で活動できるメンバーを募ったり、児童館と保育園には、毎月開催している図書館への招待事業の機会等を活用して、各園にボランティアに関する情報提供を行っていく。さらに、図書館内での定期的な発表の場を設け、活動の支援を行っていく。</p> <p>【ボランティアの資質向上】 ・年に1回開催しているボランティア連絡会で「図書館でボランティアをするために」をテーマに図書館職員が研修を行っているが、今後も様々な機会を捉えてボランティアの意義を繰り返し伝えていく。 ・宅配ボランティアについては、募集時に実施する説明会で活動の意義を学ぶ機会を設けるとともに、ボランティア連絡会を活用した研修を行うなど資質向上に努める。</p> <p>【ボランティア活動にかかる実費負担】 ・読み聞かせボランティア講座修了者は、自宅近くの図書館等を活動場所とするため、ほとんどが徒歩もしくは自転車で活動できる状況である。今後、活動の場が拡大していくことで、交通機関を利用するケースが生じた場合には、必要経費の予算措置等に向けて調整する。 ・宅配ボランティアは、今年度末に募集を行うが、募集を行う図書館の近隣の方からの応募が予想されること、また、宅配手段は原則として徒歩か自転車をお願いすることから、交通費等の支給は考えていない。しかし、宅配先が増えて、交通機関を利用する必要が生じた場合は支給できるよう、予算措置等に向けて調整する。</p> <p>【宅配ボランティア】 ・ボランティアが宅配サービス利用者宅を訪問した際に、対応困難な要求があった場合は、利用者に対して図書館から回答する旨を伝えてもらい、対応困難なケースについては、職員が訪問して、ボランティアの負担にならないように配慮をしていく。 ・今年度の宅配ボランティア募集については、館内での掲示・チラシの配布、広報かつしか・ボランティアセンターだより・図書館ホームページへの掲載などで周知していく。来年度以降は、多くの方に参加いただけるよう、図書資料貸出しにチラシを配付するなど周知の強化を図る。</p>